



国民の森林・国有林

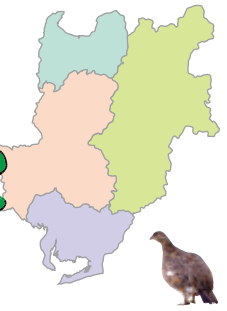
林野庁  
中部森林管理局

〒380-8575 長野市大字栗田715-5  
☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

# 中部の森林



とやまの山岳環境整備ボランティアに参加いただいた皆さん

## 富山県との協働事業

# 「とやまの山岳環境整備ボランティア」を実施

主な項目	○ 中部森林管理局 インターンシップの取組み .....	P2
	○ 各地からのたより .....	P4
	○ シリーズ「森林官からの便り」 .....	P7
	○ シリーズ「ご当地自慢」 .....	P8

## 中部森林管理局の インターンシップの取組み

【総務課】 中部森林管理局では、学生が実際の行政実務に接することにより、国有林野事業及び林野行政に対する理解、興味を深めてもらう中で、高い職業意識の育成を図ることを目的に、大学（短期大学含む）又は大学院から推薦された学生を対象に毎年春期と夏期の二回、インターンシップを実施しています。この取組みは、農林水産省就業体験実習の一環として、農林水産省本省、各地方農政局、各森林管理局で実施しています。

今年の夏期インターンシップは、県内



低コスト作業システムを見学（中信署）



境界の実測体験（中信署）

外から十三名の応募があり、学生の要望を踏まえ受入先を調整し、応募者全員を受入れ、北信、中信、東信、南信、木曾、岐阜、愛知の各森林管理署に分かれ、一週間の体験実習をしていただきました。

実習の項目は、各森林管理署の地域性もあり若干違いはありますが、製品生産事業の立木調査、周囲測量、監督の補助業務、造林事業の現地調査、監督や検査の補助業務、除伐等の保育業務の体験、治山・林道業務の監督業務補助と現地見学、ニホンジカ対策の現地等の実態把握や罾の修理等、高山植物等の保護パトロールなど多岐にわたる国有林野事業の

一環を体験してもらいました。

今回インターンシップに参加した学生からは、「はじめ、森林管理局の仕事は、木材生産に関することのみだと思っていたが、実際には技術開発や治山事業など山や自然に関することを幅広く行っている職場だと知ることができた。将来自分もこのような仕事をしたい」、「北海道出身で普通科高校出身であるため、林業の知識が少なく不安だったが、今回のインターンシップを通して、木曾五木の違いや初歩的な知識を再確認し、木材の販売など新たな知識も得ることができた。今回、一番きつかったのはウッドガードの設置でした。チェーンソー用の長靴で



\*ウッドガードの設置体験終了（木曾署）



木曾ひのきの香りサイコーです（木曾署）

登ったのも理由ですが、暑さと山の傾斜もきつかったため設置場所にたどりついた頃にはヘトヘトで、体力も必要だと再認識した」、「今回の中で、鳥獣害の対策に一番興味を湧いた。その他にも、木材の流通や販売、造林、土木工事や治山工事など学校の授業では学べないことを沢山学べた」等の感想がありました。

今後も、インターンシップの実施等により、森林や国有林野事業及び林野行政に対する理解を深めてもらうとともに興味を深まるよう取り組んでいきたいと考えています。

\*ウッドガードとは、鹿などの獣害から樹木の苗木を保護するものです。

教職員を対象とした

森林・林業体験学習会

「ふれセン」八月七日に木曽森林管理署管内の赤沢自然休養林で、木曽郡内の教職員を対象とした「平成二十九年度 森林・林業学習会」を実施しました。

この学習会は、国有林を主なフィールドとして、森林・林業の役割や国有林への理解、森林環境教育の重要性についての認識を高めて学校教育の中に積極的に導入してもらうことを目的に、長野県との共催により平成十四年度から実施しているもので、今回で十六回目の開催となります。

当日は、木曽郡内の教職員八名、関係者四名の計十二名で、学術参考林の奥千



学習会の開会式

本を指すコースを予定していましたが、台風の接近により午後から荒天が予想されたため、予定コースを若干変更しての開始となりました。  
一行は、ほおのき峠で高齢人工林と針広混交天然林の対比を見聞したのち、さわら窪へ移動し、およそ三百年生のサワラを主体とする天然林の勇壮さに感じっていました。  
廃道となった森林鉄道軌道跡では、ヒノキとサワラの見分け方やアスナロの特性等について学び、その後、七兵衛沢沿いに遡り、ウルシ沢天然林に展開する根上りのヒノキ天然木など、赤沢自然休養林に残存する温帯性針葉樹の神秘に見入っていました。



ほおのき峠で天然林と人工林の対比の説明を受ける参加者



実験に見入る子供たち

お昼過ぎに、出発地点の森林セラピー館前に辿り着いた頃には雨模様となり、次回の参加もお願いして少し早い散会となりました。

参加者からは、「他の教職員にも広めたい内容である」「三百年生のヒノキを眼前にして人間の一生の短さを感じた」などの貴重な感想が寄せられました。

夏休み「親子体験」を開催

「名古屋事務所」八月二十二日に東海農政局消費生活課、八月二十四日に名古屋熱田図書館と連携して「熱田白鳥の歴史館」で、森林の学習及び木工体験を



親子で丸太切り体験

施しました。

東海農政局のセミナーでは親子十四組十八名の児童を対象に森の話を行った後にボランティア(FCA)フォレストサークル(あいち)の方々の指導で丸太切り・クラフトとミニニスづくりを体験しました。

熱田図書館の講座にも親子七組九名の児童が参加し、東海農政局と同様の内容で実施しました。

森のお話では、砂留指導官お手製の実験装置を用いて、山に草木がある場合と裸地へ雨を降らせた場合の水の出方の実験を行いました。

子供たちからは「木が無い山は泥水が出る」、「木がある山からはきれいな水がゆっくり流れる」など実験を見ての感想があり、森林の大切さについて学ぶこと



ドライバーを使って親子でミニイスづくり

ができました。

森のお話が続いて、丸太切り、ミニイスづくりを体験しました。

丸太切りでは、子供たちが初めて使うノコギリに悪戦苦闘しながらもクラフトに使う材料の長さに切り、木口の匂いを嗅いで「いい匂いがある」などと言いながら、自分が切った木をベースに作品を完成させました。

また、ミニイスづくりでは、ボランティアの指導の下、慣れないドライバーを使いながら親子が協力して無事完成させていました。

名古屋事務所では、他の機関と連携した取組みを進める中で、地域の方々に、森林の大切さや木材利用について知っていただきたいと考えています。

### 各地からのたより

#### コンテナ苗の普及に向けた 現地検討会を開催

「岐阜署／森林技術・支援センター」七月二十日、岐阜署管内の高天良国有林において「ヒノキコンテナ苗生産者による現地検討会」を開催しました。

コンテナ苗は、通常流通している普通苗に比べて「植栽できる時期が長い」「植栽が容易」「活着率が良い」等、低コスト造林技術の確立のために不可欠であり、その試験研究が全国で行われてい

ます。  
高天良国有林において、岐阜県森林研究所と共同によるコンテナ苗試験を開始し、三年間の観察により育苗がコンテナ苗の生長に影響することが分かってきたことから、苗木生産者を対象とした検討会を企画したところ、県内の苗木生産者、全国のコンテナ苗研究者（一貫作業促進共同研究機構）等四十二名の参加がありました。

はじめに、高天良国有林の試験地において、森林技術・支援センター三村森林技術普及専門官から苗木生産者に、コンテナ苗用に開発された様々な植栽器具の展示説明を行いました。その後、研究者等と合流し、岐阜県森林研究所茂木主任専門研究員・渡邊専門研究員から「ヒノキコンテナ苗の育苗の違いによる成育状

況等の説明」がありました。

午後は会場を住友林業(株)岐阜樹木育苗センターに移し、住友林業(株)の川添シニアマネージャー等からスギコンテナ苗の生産状況等についての説明を受け、その後施設の視察を行いました。

苗木生産業者と研究者の意見交換会は車座形式にて行われ、研究者から発芽率の向上、山出し時期に合った育苗、プラグ苗を活用した省スペース生産等研究の状況説明と併せ、植栽実績の多い国有林に、植栽したコンテナ苗の評価についてフィードバックが求められました。また、苗木生産者からコンテナ苗生産の苦労話が出されるなど、コンテナ苗の品質向上に向けた取組みに有意義な意見交換会となりました。



育苗の違いによる苗木の生長を説明する三村専門官



岐阜県森林研究所の研究成果発表の様子

今後とも、蓄積している実証データと、継続中の生長調査データを取りまとめ、ホームページ等により情報発信するなど低コスト造林技術の開発・普及に取り組んでいくこととしています。

次いで七月二十一日は、市町村、林業事業者等を対象にコンテナ苗研修会を開催しました。

前日と同様に全国のコンテナ苗研究者と合同開催し、屋内研修会では全国のコンテナ苗（スギ、ヒノキ、カラマツ）の動向や研究成果をお話いただきました。

参加者は五十六名。研究者と受講者の意見交換では、コンテナ苗の取扱い（従来の造林（裸苗）との違い、仮植は可能

か)などの意見が出され、活発な意見交換が行われました。

現地研修会では、前日と同様に、岐阜県森林研究所からコンテナ苗の生育状況をはじめ、従来の裸苗との比較等についてパネルを使ってわかりやすく説明されました。

その後、森林技術・支援センターからコンテナ苗を植栽する専用の器具（スベード、ディブル、専用鋏）を紹介し、受講者によるコンテナ苗の植栽体験を行いました。

七月の炎天下での研修会になりましたが、勉強になったと好評価の意見が多く聞かれ、民国連携やコンテナ苗を普及する意味で有意義な研修会になりました。



樹木育苗センターで説明の様子



ポケットコンパスによる境界巡検

**インターンシップで 現場業務を体験**

〔愛知所〕八月二十一日から二十五日の五日間、岐阜県立森林文化アカデミーの学生一名を受け入れ、現場業務の就労体験を行いました。

今回のインターンシップは国有林での具体的業務等が体験できる内容でカリキュラムが組まれました。

主な内容は、一日目は、閘苅国有林（岡崎市）で製品生産事業地の現場見学と境界巡検（不明標の搜索等）、二、三日目は段戸国有林（設楽町）で間伐箇所等の収穫調査（樹高調査）と高齢級ヒノキの採材研修への参加、四日目は田口森林事務所（設楽町）において二、三日目の調査データを整理し、収穫調査復命書作成とドローンの操作体験、五日目は段戸



樹高を測定中の学生

国有林で治山工事箇所の出来形確認、木の造の公共建築物視察と木材市場視察（ホルツ三河）等を行いました。

学生からは「様々な体験ができて、国有林現場への理解が深まった」、「現地で収穫調査から収穫調査復命書の作成までも良かった」との感想が出されていました。

今回のインターンシップは、学生が実際の業務に接することにより、学生の学習意欲を喚起し、高い職業意識を育成するとともに、国有林野事業及び林野行政に対する理解を深めてもらうことを目的としています。

今後、次代を担う若者にこうした機会を提供し、国有林のみならず、森林・林業に関心を持っていただき、人材育成



交流会で挨拶する秋山東濃署長

の確保に努めていきたいと考えています。

**みうれ三ヶ村の地元有志グループ 現地視察と交流会を開催**

〔東濃署〕八月二十二日、旧加子母村、旧付知町、旧川上村（いずれも現岐阜県中津川市）の木曾ヒノキ備林などの裏木曾国有林の観光利用を研究している地元有志グループが、現地視察と、歴史的につながる長野県王滝村との人の交流を目的に交流会を開催し、東濃、木曾両森林管理署、県や中津川市、地元関係者ら約八十名が参加しました。

当日、東濃署に集合した旧三町村の一行六十名は、加子母裏木曾国有林内の木曾ヒノキ備林を見学し、真弓峠を越えて王滝村の松原スポーツ公園に到着。王滝村の関係者二十名も加わり交流会を行いました。また公園内には森林鉄道の軌道が敷設されており、ディーゼル機関車の走行を見学しました。

その後、一行は大滝村の滝越地区で



昔を懐かしみ、林鉄の荷台に乗る参加者

「三浦太夫の杜」等を見学後、白巣峠を越えて、一日の行程を終えました。  
 十年後のリニア中央新幹線駅開業に向けて、地域を地元の皆で盛り上げたい、この豊かな森林にたくさんの人を呼び込みたいという有志グループの思いに、国有林としてもできる限り協力し、応えていきたいと考えています。

「富山県との協働事業」  
 「とやまの山岳環境整備  
 ボランティア」を実施

「富山署」八月六日に立山弥陀ヶ原のブナ坂国有林において、立山周辺の山岳環境の保全と適正な利用推進を目的に「と



作業前に職員から作業の説明

やまの山岳環境整備ボランティア」活動が実施されました。  
 この活動は、八月十一日が山の日に制定されたことを記念して昨年から始まったもので、富山県自然保護課が主体となり、この地域一帯で活動する森林管理署、環境省、(独)国立登山研修所などの国等の機関や富山県警山岳警備隊、富山県ナチュラリスト協会の協力のもと、公募で集まった県民ボランティアと協働で環境保全に係る作業を行うものです。  
 当日は、県内各地から家族連れや自然科学部で活動する中学生など約百名の参加があり、当署からもボランティアへの指導者・作業者として七名の職員が参加しました。



滑止板の設置作業

作業は、参加者が十班に分かれ、午前中に弥陀ヶ原湿原の木道へ滑止板を設置し、午後から外来植物除去作業とナチュラリストによる自然観察会を行う予定で開始となりました。

木道への滑止板の設置は、降雨や濃霧時に木道で滑り、捻挫などの怪我をする利用者が近年増えていることから、その対策として砂などを混ぜて固めた特殊な板を木道へ打ち付けて滑り止めとするものです。

作業は、木道の広さが一人通る程度しかないこともあり、班の中で板を並べる人とクギを打つ人とに分かれ黙々と行われました。

作業中、観光で散策される方々が横を通り、この活動について質問されたり、

中には「大変ですね、お疲れ様です」と激励の声をかけてくれる方もいました。腰をかがめての大変な作業でしたが、皆がその言葉に疲れを忘れ作業を行い、予定していた数量を全て設置することができました。

しかし、この日は台風の影響で大気不安定であり、標高一、九〇〇の弥陀ヶ原では昼前から降り出した雨が午後まで続いたことから、その後予定していた外来植物除去作業と自然観察会は希望者だけを対象に時間を短縮して実施される等、少し残念な結果となってしまいました。

それでもボランティアのみなさんの顔を見ると、地元の自然環境を守る活動に携わることができたという充実感があり、同行していた私達職員も多くの人と協働ができて、今後も継続していくことが大切であると改めて感じました。

行事・会議等の予定

◎第2回木曾悠久の森管理委員会・植生管理専門委員会  
 10月3～4日 木曾署ほか

◎事業担当部長会議  
 10月5～6日 林野庁

◎緑のオーナー友の会交流会  
 10月5日 志賀高原

◎治山事業現地検討会  
 10月23～25日 北信署管内

シリーズ  
「森林官からの便り」

「木曽森林管理署 駒ヶ岳森林事務所」

首席森林官 反中 孝一

駒ヶ岳森林事務所は、長野県木曽郡上松町に所在し、木曽川左岸の木曽駒ヶ岳や宝剣岳（中央アルプス県立自然公園に指定）、木曽川右岸の卒塔婆山や西股山に至る一町全域を管轄しており、国有林面積約一〇、八〇〇haを管理しています。

江戸時代に栄えた中山道の木曽路十一宿のほぼ中央に位置する上松宿は、古くから良質な木曽ヒノキを産出する町としても有名です。

部内には小川入、台ヶ峰、駒ヶ岳の三つの国有林がありますが、中でも小川入国有林ではレクリエーションの森として赤沢自然休養林が昭和四十四年に全国で初めて指定されており、毎年約十万人の



夏の赤沢園地の小川



赤沢園内にあるボールドウィン

入り込みがあります。

当地の樹齢約三百年生の木曽ヒノキ林は、青森のヒバ、秋田のスギと並んで日本三大美林の一つとして知られており、伊勢神宮式年遷宮の御神木の伐出地でもあります。園内で運行されている森林鉄道（運行区間…往復二千二百m）は、廃止されていた路線が昭和六十年の御神木伐採で運材に使用されたことを機会に、昭和六十二年七月に観光路線として復活し営業されています。昭和五十七年には第一回全国森林浴大会が開催され森林浴発祥の地としても知られ「森林セラピー基地」としての認定も受け、赤沢での森林浴が医学的にもリラックスできることが実証されています。



体験林業の様子（剥皮防止テープ巻き）

私達職員も地域の中、高校生や技術専門学校生の体験林業の要請や、赤沢自然休養林で森林教室等も多い中、造林・生産請負事業等の監督業務や収穫調査等に日々汗しております。

部内国有林の南西部の大半は、平成二十八年四月に、木曽地方に現存する温帯性針葉樹林の保存と復元を図る区域として定められた森林生物多様性復元地域である「木曽悠久の森」として設定されました。現在、管理基本計画に基づき取り組みがなされています。

一方、ヒノキの適地でもある小川入国有林は人工林率でも約七〇割と高く、天然力を積極的に活用した針広混交林への誘導を取り組む「多様な森づくりモデル



駒ヶ岳森林事務所にて（後列右端が筆者）

林」も設定され、造林の低コスト化も重要な課題とされていることから、「ひのきの里・あげまつ」も意識しつつ、従来の慣行ではなく新しい視野と知見が試されます。

今年十月には、灰沢地区の小川入国有林に於いて神宮式年遷宮御用材伐採斧入式が執り行われます。平成二十五年の第六十二回式年遷宮に次ぐ六十三回目の式年遷宮に向けての御用材の準備ということですが、千三百年以上前から続いている歴史あるお祭りは、それこそ悠久の時を感じずにはられません。



旧神宮備林の大樹伐根（三ツ紐伐り）



自生するナベクラザゼンソウ

当地域は全  
国でも有数な  
豪雪地で、例  
年、積雪が五  
月にも及び、  
六月の雪解け  
とともに、カ  
タクリ、オオ



関田山脈遠望 (水尾山から)



ブナ林に覆われる稜線

飯山市の北西部、長野・新潟両県に跨る「関田山脈」は、斑尾山から天山水山までの標高千以上前後の山並みが、約八十キロに亘って連なる稜線で、沿線には、斑尾・なべくら・光ヶ原高原や、茶屋池、野々海池等の湖沼を擁し、稜線からの眺望もよく、ブナ林を主体とした風光明媚な森林地帯となっています。

**ご当地 自慢**

**関田山脈と信越トレイル**

**53**

北信署



樹齢300年以上の「森太郎」

◆森太郎

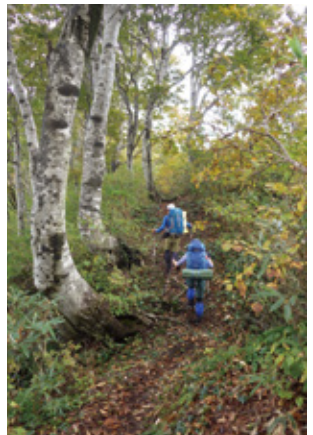
今回は、信越トレイル沿いの見所などをいくつかご紹介します。

この関田山脈の稜線は、長野県側は北信森林管理署が、新潟県側は上越森林管理署が管理しており、日本で初の管理されたトレッキングコース「信越トレイル」が設定されています。

信越トレイルは、一般の方々に関田山脈の自然や地域の文化・歴史に触れてもらうことを目的に、平成十六年からNPO法人「信越トレイルクラブ」を中心にして、平成二十年九月に全線が開通し、現在では、年間約四万人のトレイル愛好家等に利用されています。

イワカガミ、シヨウジョウバカマ、ミズバシヨウ、ナベクラザゼンソウなどの植物が咲き始め、訪れる人々を森林へと誘います。

この関田山脈の稜線は、長野県側は北信森林管理署が、新潟県側は上越森林管理署が管理しており、日本で初の管理されたトレッキングコース「信越トレイル」が設定されています。



信越トレイルの利用者

◆富倉峠 関田峠 牧峠 野々海峠  
深坂峠など 十六の峠  
関田山脈には、集落毎に十六もの峠があり、県境を越えて、人や生活・文化の交流が盛んに行われ、越後から塩、魚などの海産物を受入れる一方、信濃からは

◆森太郎

感動させます。

新緑の芽吹きや紅葉の頃の湖面に映えるブナ林はひととき美しく、訪れる人を

「森太郎」は、森の巨人たち一〇〇選に選ばれており、その威厳ある風貌が訪れる者を魅了します。

◆茶屋池、野々海池  
信越トレイル周辺には、古くから多くの溜池があり、なかでも有名なのが、茶屋池、野々海池です。



ブナ林と澄んだ水面が美しい茶屋池

▼JR及び公共交通機関  
JR飯山駅からタクシーで約三十分、九十分(国道一一七号線経由各峠まで)

◆森の家、山の家

和紙や菜種油などが送られました。古くは親鸞聖人の布教の道、上杉謙信の信濃攻めの道として伝えられている峠もあります。

今年、「信州ディスプレイネーションキャンペーン」のポスターには、「森の家」近くのブナ林が掲載されました。

今年、「信州ディスプレイネーションキャンペーン」のポスターには、「森の家」近くのブナ林が掲載されました。

今年、「信州ディスプレイネーションキャンペーン」のポスターには、「森の家」近くのブナ林が掲載されました。



拠点の利用が多い「森の家」



深坂峠から上越市を望む

◆森の家、山の家

今年、「信州ディスプレイネーションキャンペーン」のポスターには、「森の家」近くのブナ林が掲載されました。